

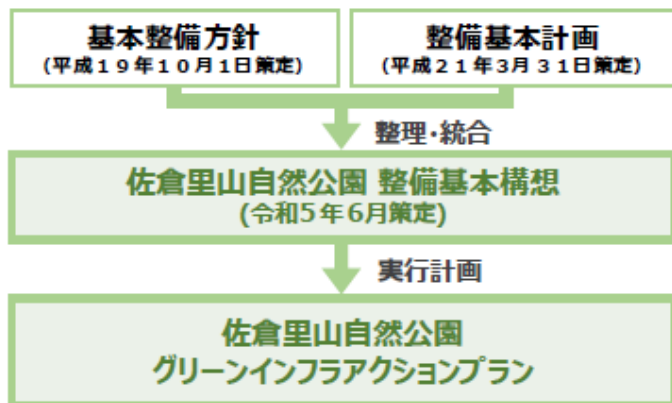
2025(R7)年3月17日
印旛沼流域水循環健全化会議
第35回委員会 資料 5



佐倉里山自然公園 (白井作) における取組について

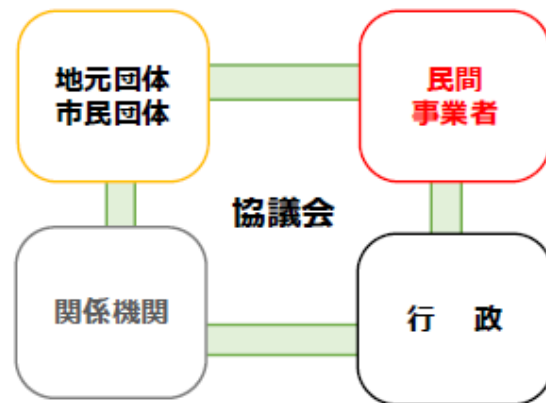
スライド1

アクションプランの役割



- ✓ 市民協働や公民連携等の共創により、豊かな里山環境を保全、活用するため、令和5年6月、「佐倉里山自然公園整備基本構想」を策定
- ✓ 本構想に基づいた実行計画である「佐倉里山自然公園グリーンインフラアクションプラン」を策定

推進体制



- ✓ アクションプランの推進主体として「佐倉里山自然公園協議会」を設立
- ✓ 行政だけではなく、市民団体や民間事業者等との連携を図り、「市民協働」や「公民連携」により事業に取り組む

基本方針・基本施策

基本方針. みどりの保全

基本施策1. 自然環境や景観の保全

- ・適正な維持管理により自然環境や景観を保全します。
- ・保護区等の認定により自然環境や景観を保全します。

基本施策2. 生物多様性の保全 (ネイチャーポジティブの推進)

- ・希少な生き物を保護します。
- ・希少な植物を保護します。

基本施策3. 自然環境や生物多様性の学び ・実践の場の提供

- ・環境学習の場として活用します。
- ・生物多様性への理解を深める活動を実施します。

基本方針. みどりの活用

基本施策1. グリーンインフラの推進

- ・気候変動の緩和・適応策（カーボンニュートラル）に資する施策を推進します。
- ・防災・減災に資する施策を推進します。

基本施策2. 心身の健康の推進 (ウェルビーイングの向上)

- ・自然散策により心身の健康を増進します。
- ・こどもの自己肯定感を高め、健やかな成長を支援します。

基本施策3. 歴史と文化の継承

- ・農業文化を次世代に伝えます。
- ・上峠台地の整備により歴史と文化を次世代に伝えます。

基本方針. みどりの共創

基本施策1. 市民協働の推進

- ・市民協働による維持管理を推進します。
- ・市民協働による利活用促進を推進します。

基本施策2. 公民連携の推進

- ・民間事業者による維持管理を推進します。
- ・民間事業者による利活用の促進を推進します。

将来像（目指すべき姿）

里山の多様な価値を創出し、人と自然が共生できる“未来のふるさと”

リーディングプロジェクト

①OECD認定を契機とした
谷津保全プロジェクト

②アウトドア・ラーニングプロジェクト

③里山健康フィールドプロジェクト

④バイオ炭を活用した
谷津再生プロジェクト

⑤里山大学を核とした
共創による里山再生プロジェクト

⑥佐倉里山サポーターづくりプロジェクト

◆ 谷津による雨水貯留

- 現状、雨水排水管を経由して、河川へ直接放流されている雨水排水を、谷津に引き込み、一時的に貯留することで、雨水をゆっくり排水するとともに、谷津を湿地化や池造成などを行うことにより、生物多様性や水質浄化の機能を向上させる。

◆ 集水域での雨水浸透対策（雨庭等）の実施

- 谷津の取組だけとせず、集水域による雨水流出抑制の取組（例：雨庭整備等、雨水浸透対策）を実施することで、雨水流出抑制や湧水量の増加を狙う。

◆ 関係者協働の取組実施

- 健全化会議が推進役として、あらゆる関係者の連携・協働による取組事例として実行する。
- 取組効果の検証・見える化を行い、結果を広報することで、取り組みや連携・協働の仕組みを流域に展開する。

取組内容（案）：現状

スライド5



暗渠排水で流していた雨水を谷津に引き込むことで、一時的に貯留し、流出を抑制する
合せて、谷津の中で生物多様性の向上につながるような整備や、台地上の雨水浸透対策等を実施する



取組による効果検証をあらゆる主体による連携によって行い、その効果を広報することで、白井作での取組モデルを流域へ展開することを目指す

【効果検証項目と検証方法（案）】

◆ 流出抑制効果

- 現地観測と流出シミュレーションにより効果検証を実施
- 現地観測：流量観測（谷津への流入量、流出量）を行い、河川への流出抑制効果を検証
- 流出シミュレーション：現地観測結果を踏まえて、下流の水害リスクが高いエリアへの影響を検証
- 見える化：3Dモデル化を行い、取組内容や効果検証結果を可視化

◆ その他機能の効果

- 水質浄化機能
 - 流入部と流出部での水質（窒素、りん）を測定し、谷津での脱窒効果や流出抑制による水質への影響を検証
- 生物多様性機能
 - 生物調査（植生、底生動物等）を行い、谷津を湿地化、池造成等による生物への影響を検証

効果検証について、流域治水部会で議論
関係者全員で協力していく方向性を確認

学生ボランティア団体IVUSAと国立環境研究所協働による活動がすでに開始！

◆ 活動実施日

- 2025(R7)年2月26日～28日

◆ 活動内容

- 『景観向上のための竹藪の伐採』と
- 『谷津の中で生物多様性を向上させるための湿地整備』を開始
- 国立環境研究所（西廣委員の研究チーム）により、湿地整備の意義と実施方法をIVUSAが学び、湿地整備を実施。今後生物相の変化等を一緒に観察していく予定



◆ 小さなきっかけが取組の実施に広がった

- グリーンインフラアクションプランに『田んぼダム』と記載したことがきっかけ
- 流域治水部会として田んぼダムやグリーンインフラの取組推進をしていた健全化会議の事務局がこれに気がつき、議論がスタート
- その後、流域治水部会としての取組となり、すでにIVUSAや国立環境研究所の活動がスタート

◆ 今後の期待

- 佐倉市単独では、できない取組が展開される可能性に期待
- 特に、効果測定や結果の見える化、さらにはその情報発信・広報などを流域治水部会の委員、メンバー、事務局と協働できることは大きな成果につながる可能性がある